

■ ～新生児聴覚スクリーニングについて～

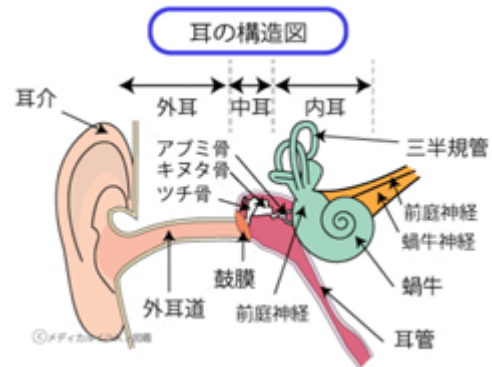
新生児聴覚スクリーニング検査とは、聞こえの異常を早く発見するために、赤ちゃんに対して行う検査のことです。当院での聴覚スクリーニングは、「誘発耳音響放射法(TEOAE)」を採用しております。これは、眠っている赤ちゃんに小さな音を聞かせて、音に反応して内耳からかえってきた反響音を、コンピューターが判断し、音に対しての正常な反応があるかないかを調べる方法です。これにより赤ちゃんの内耳にある蝸牛(かぎゅう)と呼ばれる部分の機能を検査します。

具体的には、外耳道に小さな検査装置(プローブ)を入れて測定する簡単な検査で、赤ちゃんに痛みはありません。時間としては、赤ちゃんが眠っていれば数分から10分以内で終わります。

検査の時期は、お母さんの入院期間中、生後2日から退院までの間に行います。中には入院期間中に成績の判断ができないことがあり、小児科外来で再検査する場合があります。



先天性難聴は1,000人に1人か2人の率で出現すると言われています。早く見つけて適切な支援をすることによって、赤ちゃんの言語の発達を助けることができます。そのためには早期の発見が必要となりますが、通常の診察では判断することが困難なため、専用のスクリーニング装置による検査が必要になるのです。



担当:放射線科 佐藤 三恵子